

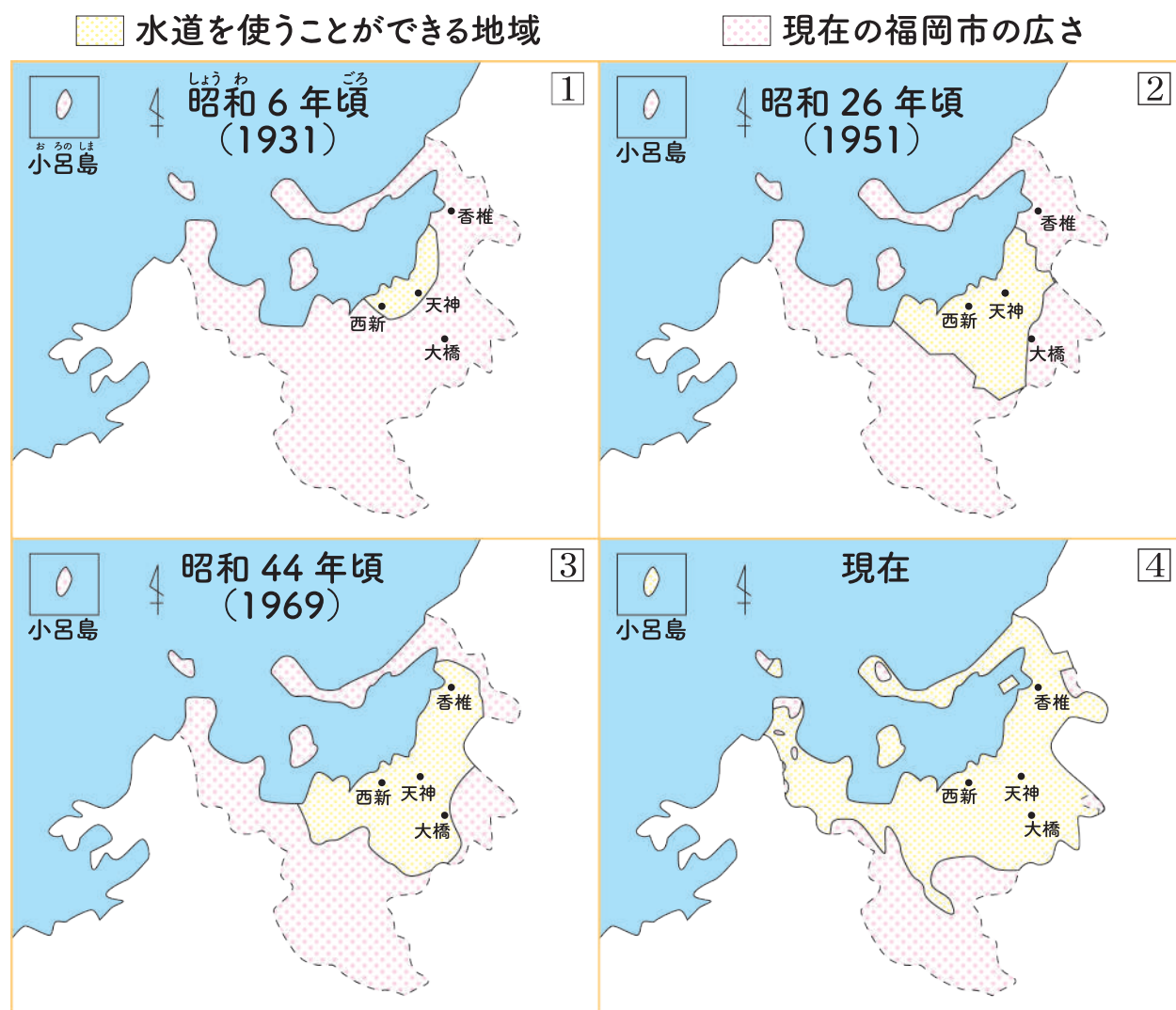
3 水道のあゆみ

④広がってきた水道



水道を使うことができる地域は、どのように広がってきたのかな。

水道を使うことができるようになった地域の広がり

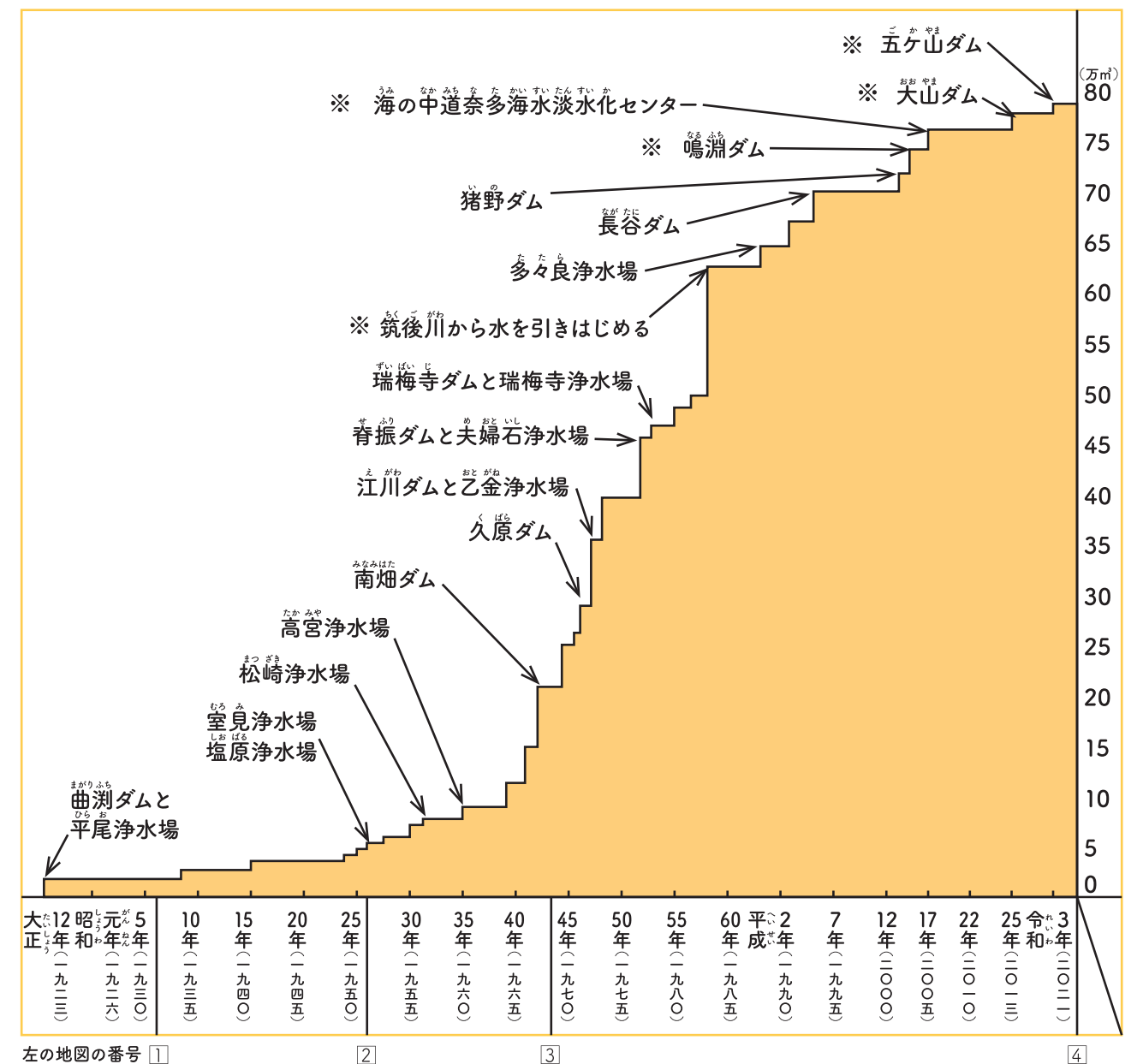


福岡市の水道は、しだいに広がってきたんだね。今では、ほとんどの人が水道を使えるようになったんだね。



増えてきた福岡市のダムや浄水場と1日に配れる水の量のうつつりかわり

(福岡市水道局統計)



左の地図の番号 ① ② ③ ④



福岡市では、人口がふえ続けています。そこで、市では人々が水に困らないように、ダムや浄水場をつくったり、遠くの川から水を引いたりして、たくさん水を配れるようにしてきました。今では1日に配れる水の量はプール 2,167 はい分(約 78 万 m^3)までになりました。これは、はじめて水道ができたときの約 50 倍です。

(ねらい) 給水地域がしだいに広まってきたことと、現在では山地を除くほとんどの地域で水道が使えるようになったことに気づかせてください。

(解説) ●現在までに多くの拡張工事を実施して給水能力を高めてきたことに気づかせてください。市域の拡大に伴う人口の増加、生活水準の向上などによって、水の需要量が激増しました。

(解説) ●室見浄水場は現在、取水場になっています。平尾浄水場は夫婦石浄水場ができて廃止になりました。
塩原浄水場は乙金浄水場ができて廃止になりました。松崎浄水場は多々良浄水場ができて配水場になりました。
●給水区域内の給水普及率は約 99.7%です。(令和6年3月末現在)
●※印は福岡市が福岡地区水道企業団(P11の解説参照)から受け取る水です。
●プールは小学校の25mプール(360 m^3)で換算しています。